平成25年度　日本 NGO 連携無償資金協力完了報告書

コンポンチュナン州農村開発事業

2015年6月

公益財団法人　国際開発救援財団

日本ＮＧＯ連携無償資金協力　完了報告書

１．基本情報	
（１）案件名	日本語名：コンポンチュナン州農村開発事業 英 語 名：Food and Nutrition Security Project in Kampong Chhnang Province
（２）贈与契約締結日及び事業期間	・贈与契約締結日：２０１４年３月７日 ・事業期間：２０１４年３月２４日～２０１５年３月２３日
（３）供与限度額及び実績（返還額）	・供与限度額：348,358.00 米ドル ・総　支　出：345,886.03 米ドル（返還額：2,471.97 米ドル）
（４）団体名・連絡先、事業担当者名	（ア）団体名：公益財団法人　国際開発救援財団 Foundation for International Development/Relief （イ）電話：855(0)23-880-655　携帯：(855)12-548-768 （ウ）FAX：855(0)23-880-755 （エ）E-mail：akemi.takahashi@fidr.or.jp （オ）事業担当者名：高橋　明美　（カンボジア事務所長）
（５）事業変更の有無	事業変更承認の有無：有 申請日：２０１４年１０月２日 承認日：２０１４年１０月１６日 内容：職員増員に伴う事務機械・事務用家具の追加購入、及び現地出張費の増額

２．事業の概要と成果	
（１）上位目標の達成度	3 年次事業の初年度にあたる本年度は、上位目標である「事業対象地の小規模農家が自らの力で生活状況を改善し、十分かつ栄養のある食事を摂り、良好な健康状態を維持できるようになる」の達成に向けて、①主食である米の収穫量の増加や営農の多様化による食料の確保、②保健衛生や栄養に対する意識向上、③自立的発展の基盤となる農民グループの形成に取り組み、着実に貢献することができた。具体的な数値等は下記の通りである。 ①　SRI 農法を導入した農家は事業対象世帯 5,857 世帯の 31%(2013 年）から 56%に増え、米の収穫高は伝統的稲作法より平均して 1.2t/ha 高かった。家庭菜園、養鶏を導入した農家はそれぞれ 21%、18%（2013 年）から 57%、44%にまで増え、食糧不足の状態が緩和されつつある。 ②　5 歳未満児の栄養不良の割合は、30.5%(2013 年 10 月)から 27.9%（2014 年 11 月）まで減少した。補完食を与えられる乳幼児の割合も 25%（2012 年）から 58%（農閑期)、45%（農繁期）まで増え、栄養に対する意識が向上し、乳幼児の栄養状態に改善がみられるようになった。 ③　71 の農民グループが形成され、農家が自らの力で生活状況を改善していくための基盤となるネットワークができ、情報共有と相互扶助の文化の醸成が認められた。
（２）事業内容	本事業は、事業対象地の貧困削減と食料・栄養の安全保障の達成、及びそれらが自立的・持続的に発展するべく、①「米の生産性向上と営農の多様化を目的とした活動」、②「保健衛生や栄養に対する意識向上を目的とした活動」、③「ネットワークの構築を目的とした活動」を実施した。各活動における研修回数、参加者数（延べ数）は以下の通りである。 **①　米の生産性向上と営農の多様化を目的とした活動** <u>1－1　稲作技術の改善（SRI 稲作農法の推進）</u> 1.　稲作技術トレーナー養成研修（5 回：608 名） 2.　稲作技術研修（2 回：1,812 名） 3.　視察研修（2 回：224 名） 4.　SRI フィールド集会（1 回：420 名） <u>1－2　家庭菜園の推進</u> 1.　家庭菜園技術トレーナー養成研修（4 回：490 名） 2.　家庭菜園技術研修（2 回：2,210 名）(※1) <u>1－3　養鶏の推進</u> 1.　養鶏技術トレーナー養成研修（2 回：230 名） 2.　養鶏技術研修（2 回：2,003 名） 3.　視察研修（2 回：353 名） <u>1－4　鶏病予防ボランティアの育成</u>

	1.　鶏病予防ボランティア養成研修（1 回：39 名）(※2) 1－5　若い農家の育成 1.　農業技術研修（6 回：1,309 名）(※3) **② 保健衛生や栄養に対する意識向上を目的とした活動** 2－1　発育及び栄養に関する知識の向上 1.　身体測定事前研修（2 回：221 名） 2.　身体測定（2 回：3,800 名） 3.　栄養に関するトレーナー養成研修（3 回：352 名） 4.　補完食に関するトレーナー養成研修（3 回：337 名） 5.　栄養と補完食に関する研修（2 回：2,577 名） 6.　補完食の実演（6 回：15,177 名） 2－2　公衆衛生知識の向上 1.　公衆衛生に関するトレーナー養成研修（2 回：224 名） 2.　公衆衛生研修（2 回：3,604 名） 3.　公衆衛生キャンペーン（2 回：402 名） 2－3　疾病予防知識の向上 1.　疾病予防に関するトレーナー養成研修（2 回：225 名） 2.　疾病予防研修（2 回：2,865 名） 2－4　若い農家の健康促進 1.　若い農家を対象にした健康促進研修（5 回：1,098 名） **③ ネットワークの構築を目的とした活動** 3－1　情報共有文化の醸成 1.　農業技術に関する情報共有集会（4 回：862 名） 2.　保健衛生・栄養に関する情報共有集会（3 回：792 名） 3－2　地域リーダーの育成と農家間のネットワークの形成 1.　リーダーシップ研修（2 回：343 名） 2.　ネットワーキング研修（3 回：644 名） 3－3　地域ネットワーク構築と事業に対するオーナーシップ意識の醸成 1.　村レベル関係者集会（1 回：1,310 名） 2.　郡レベル関係者集会（2 回：356 名） 3.　両郡合同関係者集会（1 回：328 名） (※1)　研修に参加した農家延べ 2,210 名に対し、8 種類の野菜の種（1 回目 3 種類、2 回目 5 種類）を郡農業局と地区評議会に供与した。 (※2)　研修を修了した農家 39 名に対し、鶏用ワクチンなどの器具を地区評議会に供与した。 (※3)　研修を受講し、SRI 農法や養鶏に取り組み始めた若い農家延べ 234 名に対し、水田の除草に使用する水田用手動除草機 117 台と養鶏小屋用ネット 117 枚を郡農業局と地区評議会に供与した。

（３）達成された成果	①「米の生産性と営農の多様化を目的とした活動」、および③「ネットワークの構築を目的とした活動」においては、指標値を上回る成果を達成した。一方、②「保健衛生や栄養に対する意識向上を目的とした活動」においては、補完食の普及率（35%）は達成したものの、5 歳未満児の栄養不良（体重年齢比）の指標数値（26%）には僅かに届かなかった。 各活動における指標と成果の詳細は下記の通りである。比較できなかった他の指標については 2016 年終了時事業評価にて検証する。 **①　米の生産性と営農の多様化を目的とした活動** **【指標 1】**SRI 農法、家庭菜園、養鶏を行う農家数が増加する ■SRI 農法指標値：対象世帯の 48%（2,808 世帯） SRI 新規導入農家 1,432 世帯:SRI 農法を行う農家は総計 3,256 世帯となり、事業対象世帯 5,857 世帯の **56%**になった。 ■家庭菜園指標値：対象世帯の 38%（2,231 世帯） 新規導入農家 2,079 世帯：家庭菜園を営む農家は総計 3,335 世帯となり、事業対象世帯 5,857 世帯の **57%**になった。 ■養鶏指標値：対象世帯の 35%（2,051 世帯） 養鶏新規導入･改善農家 1,472 世帯:養鶏を行う農家は計 2,548 世帯となり、事業対象世帯 5,857 世帯の **44%**になった。 **【指標 2】**SRI 農法の平均収穫高が伝統的稲作より高い。 ■指標値：伝統的稲作法と SRI 農法による収穫量の差:1.3 倍～1.5 倍 11 月に実施した収穫高調査の結果、SRI 農法の平均収穫高（3.58t/ha）は伝統的稲作法（2.38t/ha）より 1.2t/ha 高く、平均差は有意(※1)であった。収穫量の差は **1.5 倍**であった。 (※1) サンプルサイズ n=164、p 値 p<0.01 **②　保健衛生や栄養に対する意識向上を目的とした活動** **【指標 1】**5 歳未満児の栄養不良（体重年齢比）の割合が減少する ■指標値：WHO 標準偏差マイナス 2 以下 26% 5 月に身体測定を行った 1,852 人のうち、生後 6 ヵ月から 59 ヵ月の有効サンプル数は 1,626 であった。WHO 標準偏差マイナス２以下の栄養不良率（体重年齢比）は **32.5%**(※2)であった。 全体 1,626 名:（栄養不良 529 人）32.5% 男児　843 名:（栄養不良 282 人）33.5% 女児　783 名:（栄養不良 247 人）31.5% (※2) 信頼区間 95%での母集団の推定値: 30.3%-34.8% 11 月に身体測定を行った 1,948 人のうち、生後 6 ヵ月から 59 ヵ月の有効サンプル数は 1,587 であり、WHO 標準偏差マイナス２以下の栄養不良率(体重年齢比)は **27.9%**(※3)であった。 全体 1,587 名:（栄養不良 442 人）27.9% 男児　825 名:（栄養不良 243 人）29.5% 女児　762 名:（栄養不良 199 人）26.1% (※3) 信頼区間 95%での母集団の推定値: 25.7% - 30.1%

	【指標 2】補完食の普及率が高まる ■指標値: 過去 2 週間に補完食を調理した母親を持つ子供の割合 35% 5 月（農閑期）に 1,852 人、11 月（農繁期）に 1,948 人を対象に実施した身体測定時に母親に対して行ったサーベイの結果、過去 2 週間に補完食を調理した母親を持つ子供の割合はそれぞれ **58%、45%**であった。 **③　ネットワークの構築を目的とした活動** 【指標 1】農家のネットワークが構築される ■指標値：農民グループが形成される SRI 農法 8 グループ（計 108 名）、養鶏 34 グループ（計 479 名）、家庭菜園 29 グループ（計 461 名）の農民グループが形成された。 【指標 2】計画策定に対する農家の参加が高まる。 ■指標値：農家の声が村年次開発計画の策定に反映される。 村長、地区評議会委員、篤農家らを中心に総計 1,310 名が参加した村レベルの関係者集会にて、 篤農家たちの成功体験から SRI 農法、養鶏、野菜栽培導入による営農の多様化の効果が認められ、具体的な数値目標（新規導入農家数等）が村年次開発計画に盛り込まれた。営農の多様化が世帯にもたらす収入および食料の安全保障における効果は地区レベルでも確認され、地区年次開発計画においても具体的数値目標が定められた。
（４） 持続発展性	**①　米の生産性と営農の多様化を目的とした活動** 篤農家たちの指導能力をさらに高めるとともに、SRI 農法、家庭菜園、養鶏を営む農家の連携を農民グループのネットワークを通して強めることで、これらの技術を導入した農家が営農活動を継続できるようサポート体制を強化する。また、村年次開発計画および地区年次開発計画に定められた新規導入農家数の数値目標をもとに、村・地区行政が主体となって SRI 農法、家庭菜園、養鶏の導入を推進できるよう補佐する。 **②　保健衛生や栄養に対する意識向上を目的とした活動** 「保健衛生・栄養に関する情報共有集会」を地区レベルで開催し、これをもとに各地区での保健ボランティアを中心とした低栄養児のモニタリング体制（低栄養児の世帯状況把握と継続的観察）を強化することにより、低栄養率のさらなる減少を目指す。 さらに母親を対象とした「栄養と補完食に関する研修」「補完食の実演」を継続し、母親の行動変容（Behavior Change）を促す。 **③　ネットワークの構築を目的とした活動** これまでに形成した 71 の農民グループを地区ごとに統合し、農民組合（Agriculture Cooperative）として農林水産省への登録を目指す。組合として認可されることで、グループの持続発展が制度的に促されるようにする。

（様式４）

３．事業管理体制、その他 2014 年 3 月 24 日にコンポンチュナン市中心部に近い住宅地に事業事務所を開設し、既存職員 4 名に加えて、5 月 1 日までにプロジェクトファシリテーター2 名、事業経理担当 1 名、警備員 3 名を新規採用した。併せて事業遂行に必要な車両、機器備品等を購入し、事業実施体制を整えた。プロジェクトマネージャーが自己都合により退職した 5 月以降は、所長の高橋明美がマネージャーを兼任することで事業の運営・管理にあたった。10 月には新たにプロジェクトアシスタント 2 名、事業経理アシスタント 1 名を採用し、計 13 名で事業を実施した。	
（１）特記事項	無し

完了報告書記載日：２０１５年６月２２日
団体代表者名：　公益財団法人国際開発救援財団
理事長　　飯島　延浩

【添付書類】
① 事業内容、事業の成果に関する写真
② 日本ＮＧＯ連携無償資金収支表（様式４－a）

【添付】事業内容、事業の成果に関する写真（2014 年 3 月 24 日～2015 年 3 月 23 日）

■ 事業事務所の開設（2014 年 3 月 24 日）

事務所外観：コンポンチュナン市中心部より西へ 600 メートルほどの住宅地にある戸建	事務所開設の様子：3 月 24 日に賃貸契約を結び、荷物や資料を運び入れた

■ 購入機材（名称・個数）

バイク（SUZUKI VIVA 2014）、3 台	車（いすず D-Max pick up）
会議用机（楕円型）	会議用机（長方形型）

 ラップトップ（Satellite L40-B207GX PSKQGL-00D006）、2 台	 ラップトップ（東芝 Satellite L40）、2 台
 スクリーンプロジェクター（三脚式）	 LCD プロジェクター（NEC NP-M420XG）
 デスクトップ（Dell Inspiron 3000 3847-DOS）	 デスクトップ（Dell optiplex 9020MT）

 デジタルカメラ（Canon powershot SX270, SX50HS）2 台	 前面ガラス張り戸棚、2 架
 レーザープリンター（HP Laserjet pro400）	 コピー機（東芝）
 本棚	 ホワイトボード（可動式）

■　（１）米の生産性向上と営農の多様化を目的とした活動

 稲作技術トレーナー養成研修:SRI 農法概論(4月）篤農家 111 名が参加	 稲作技術研修トレーナー養成研修：SRI 農法概論（6 月）篤農家 122 名が参加
 SRI 視察研修（7 月）篤農家 110 名が他地区の篤農家を訪問し、情報共有を行った	 稲作技術研修トレーナー養成研修：SRI 農法での田植え(7 月)篤農家 106 名が参加
 稲作技術研修（6 月）農家 931 名が参加し、種の選定、苗代の作り方について学んだ	 稲作技術研修（7 月）農家 881 名が参加し、水田の土壌管理等について学んだ

 家庭菜園技術研修（6 月）農家 1,314 名が参加し、堆肥の作り方等について学んだ	 家庭菜園トレーナー養成研修（7 月）篤農家 121 名が参加し、害虫等について学んだ
 若い農家を対象とした農業技術研修（5 月、7 月）農家延べ 413 名が参加	 養鶏技術トレーナー養成研修（5 月）篤農家 107 名が参加
 若い農家の農業技術研修（8 月）若い農家 219 名が参加し、養鶏技術について学んだ	 家庭菜園トレーナー養成研修：総合的病害虫管理（8 月）篤農家 120 名が参加

 若い農家の健康促進研修（8 月）若い農家 208 名が参加し、救命処置等を学んだ	 養鶏視察研修（8 月）篤農家 117 名が他地区の篤農家を訪問し、情報共有を行った
 養鶏技術研修(8 月)農家計 1,166 名が参加し、鶏舎の設置方法等について学んだ	 SRI 視察研修（8 月）篤農家 114 名が他地区の篤農家を訪問し、情報共有を行った
 稲作技術トレーナー養成研修：育種（9 月）篤農家 138 名が参加し、育種法を学んだ	 家庭菜園技術トレーナー養成研修：総合的病害虫管理（10 月）篤農家 129 名が参加

若い農家に対する農業技術研修（10 月）若い農家 239 名が参加し、鶏の育て方を学んだ

稲作技術トレーナー養成研修：育種（10 月）篤農家 131 名が参加

鶏病予防ボランティア養成研修（10 月）各村より 1 名の篤農家（計 39 名）が参加

水田用手動除草機（10-11 月）若い農家育成のため 117 機を郡農業局に支給

収穫高調査（11 月）伝統的農法と SRI 農法による収穫高の比較調査を実施

SRI フィールド集会（12 月）ロレイアッピア郡知事、ボリボー郡副知事ら計 420 名が参加

 若い農家を対象とした農業技術研修 （12 月）若い農家 204 名が参加	 家庭菜園技術トレーナー養成研修（12 月） 篤農家 120 名が参加
 家庭菜園技術研修（1 月）農家 896 名が参加し、 乾季における野菜栽培について学んだ	 養鶏技術トレーナー養成研修（1 月）篤農家 123 名が参加し、成鶏と雛の飼育法を学んだ
 養鶏技術研修（1 月）農家 837 名が参加し、鶏 の飼育法と飼料について学んだ	 養鶏視察研修（2 月）篤農家 236 名が成功して いる養鶏農家を訪問し、飼育法を学んだ

若い農家に対する農業技術研修（3 月）若い農家 234 名が参加し、鶏病予防を学んだ	同左

■　（２）保健衛生や栄養に対する意識向上を目的とした活動

公衆衛生に関するトレーナー養成研修（4 月）保健ボランティアら 109 名が参加	身体測定事前研修（5 月）保健ボランティアら 98 名が参加し、計測法について学んだ
栄養に関するトレーナー養成研修（5 月）保健ボランティアら 119 名が参加	同左：栄養素の働きや栄養失調、補完食（離乳食）について学んだ

 若い農家に対する健康促進研修（6 月） 192 名が参加し、公衆衛生について学んだ	 公衆衛生キャンペーン（6 月）村長、保健センター職員、地区評議院ら 201 名が参加
 補完食（離乳食）の実演（6 月～7 月） 乳幼児の母親延べ 4,074 名が参加	 同左：補完食の調理法、具材となる野菜の種類、子供の食事傾向の観察等について学んだ
 疾病予防に関するトレーナー養成研修 （7 月）保健ボランティアら 116 名が参加	 疾病予防研修（7 月）農家 1,401 名が参加し感染症の原因と兆候について学んだ

 補完食の実演（8 月）乳幼児の母親延べ 2,517 名が参加	 栄養に関するトレーナー養成研修（8 月）　保健ボランティアら 113 名が参加
 補完食に関するトレーナー養成研修（8 月）保健ボランティアら 119 名が参加	 補完食の実演（9 月）乳幼児の母親延べ 2,328 名が参加し、補完食の実演を行った
 補完食に関するトレーナー養成研修（9 月）保健ボランティアら 108 名が参加	 補完食の実演（10 月）乳幼児の母親延べ 2,355 名が参加し、補完食の実演を行った

栄養に関するトレーナー養成研修（10 月）保健ボランティアら 120 名が参加

若い農家に対する健康促進研修（10 月）若い農家 250 名が参加

補完食の実演（11 月）乳幼児の母親延べ 2,242 名が参加

身体測定事前研修（11 月）保健ボランティアら計 123 名が参加

身体測定（11 月）乳幼児 1,948 名の体重・身長計測、補完食の調理状況調査を行った

公衆衛生に関するトレーナー養成研修（11 月）保健ボランティアら 115 名が参加

 若い農家を対象とした健康促進研修 （12 月）若い農家 220 名が参加	 補完食の実演（12 月）（アンチャンロン地区） 乳幼児の母親 226 名が参加
 補完食に関するトレーナー養成研修 （12 月）保健ボランティアら 110 名が参加	 栄養と補完食に関する研修（1 月）乳児を 持つ母親ら 1,432 名が参加
 疾病予防に関するトレーナー養成研修　（1 月）保健ボランティアら 109 名が参加	 公衆衛生キャンペーン（1 月）村長、保健セン ター職員、地区評議員ら計 201 名が参加

公衆衛生研修（2 月）農家 1,552 名が参加し、衣食住における衛生の大切さを学んだ

若い農家に対する健康促進研修（2 月）若い農家 228 名が参加

疾病予防研修(2 月)農家計 1,464 名が参加し、胃腸系の疾病や感染症について学んだ

補完食の実演（3 月）乳幼児の母親延べ 1,435 名が参加し、補完食の実演を行った

■ （３）ネットワークの構築を目的とした活動

両郡合同関係者集会（3 月）: 郡知事、地区長、州農業局員、保健局員ら 60 名が参加

同左：事業成果が共有され、今年度の活動計画について議論が交わされた

リーダーシップ研修（6 月）篤農家、
保健ボランティアら 148 名が参加

ネットワーキング研修（7 月）篤農家、
保健ボランティアら 132 名が参加

農業技術に関する情報共有集会（5 月）
篤農家や若い農家ら 206 名が参加

保健衛生・栄養に関する情報共有集会
（6 月）保健ボランティアら 230 名が参加

農業技術に関する情報共有集会（8 月）篤農家ら 209 名が参加し、情報共有を行った

リーダーシップ研修（9 月）篤農家や若い農家が参加し、リーダーの役割について学んだ

 保健衛生・栄養に関する情報共有集会 （9 月）保健ボランティアら 242 名が参加	 同左
 ネットワーク研修（10 月）篤農家、若い農家、 保健ボランティアら計 252 名が参加	 保健衛生・栄養に関する情報共有集会 （1 月）保健ボランティアら 320 名が参加
 農業技術に関する情報共有集会（11 月） 篤農家、若い農家ら計 212 名が参加	 村レベル関係者集会(1 月)篤農家、 保健ボランティアら計 1,310 名が参加

農業技術に関する情報共有集会（2 月）
篤農家や若い農家計 235 名が参加

ネットワーク研修（2 月）篤農家、若い農家ら
計 260 名が農民組合について話し合った

郡レベル関係者集会（ロレイアッピア郡）
（3 月）郡知事、村長ら計 228 名が参加

郡レベル関係者集会（ボリボー郡）（3 月）
郡知事、篤農家ら計 128 名が参加

■　事業成果

SRI 農法の導入：事業対象世帯の 56%の農家が SRI 農法を導入。11 月に実施した収穫高調査の結果、伝統的稲作法と比べ収穫高が 1.5 倍であった

養鶏の導入：養鶏を営む農家は総計 2,548 世帯となり、事業対象世帯の 44%となった

 家庭菜園の導入：家庭菜園を営む農家は総計3,335 世帯、事業対象世帯の 57%となった	 鶏病予防ボランティアに地区評議会を通して鶏用ワクチン等の器具を供与した
 若い農家の育成のため、水田用手動除草機 117 機を郡農業局、および地区評議会に支給	 同左
 若い農家の育成のため、鶏舎用ネット 117 名を郡農業局、および地区評議会に支給	 同左

野菜の種を乾季と雨季の 2 回に渡って供与した

同左：配布した野菜の種
（1 回目 3 種類、2 回目 5 種類）

補完食の普及率の向上：過去 2 週間に補完食を調理した母親を持つ子供の割合が 5 月（農閑期）には 58%、11 月（農繁期）には 45%であった

農民のネットワークの構築：SRI 農法 8 グループ（計 108 名）、養鶏 34 グループ（計 479 名）、家庭菜園 29 グループ（計 461 名）が形成された

作成した IEC 教材①：SRI 農法

作成した IEC 教材②：養鶏技術

作成した IEC 教材③：家庭菜園カレンダー

作成した IEC 教材④：小規模農家における営農の多様化による食糧生産推進ポスター

事業広報のため農家へ配布したＴシャツ（表面）

事業広報のため農家へ配布したＴシャツ（裏面）

（様式４－a）

日本NGO連携無償資金収支表

（供与限度額未満の支出の場合）

公益財団法人　国際開発救援財団

コンポンチュナン州農村開発事業事業（カンボジア国）

自　2014年3月24日　　至　2015年3月23日　　（贈与契約上の通貨）

	連携無償	その他資金
【収入の部】		
総収入	348,358	5,504
【支出の部】		
1．現地事業経費	336,426	5,504
（1）直接事業費	169,192	330
（ア）資機材購入費等	0	0
（イ）ワークショップ等開催費	169,192	330
（ウ）専門家派遣費	0	0
（エ）研修員招聘費	0	0
（2）事業管理費	167,234	5,174
（ア）本部スタッフ（駐在）人件費	19,764	0
（イ）現地スタッフ人件費	48,953	3,288
（ウ）現地事務所借料等	5,036	104
（エ）現地移動費	63,133	756
（オ）会議費	0	297
（カ）通信費	2,901	0
（キ）事業資料作成費	1,927	243
（ク）事務用品購入費等	16,313	486
（ケ）本部スタッフ派遣費	9,208	0
（3）情報収集費	0	0
（4）その他安全対策費	0	0
2．現地事業後方支援経費	0	0
（1）現地事業後方支援管理費	0	0
（ア）本部スタッフ（事業担当）人件費	0	0
（イ）本部スタッフ（経理担当）人件費	0	0
（ウ）会議費	0	0
（エ）通信費	0	0
（オ）事業資料作成費	0	0
（カ）事務用品購入費	0	0
（2）その他安全対策費	0	0
3．一般管理費等	8,460	0
4．外部監査経費	1,000	0
（1）外部監査経費	1,000	0
（ア）現地外部監査経費	1,000	0
（イ）本部外部監査経費	0	0
支払実績	345,886	5,504
総支出	345,886.03	5,504
残高	2,471.97	0
利息等	0	0